R O S É

文化・交流―新しい地域創造

ロゼ

文化情報誌 ロゼ

Art information of Fuji city

Culture Magazine ROSÉ

Vol.7 SPRING 1994

春 号

Vol. 7

ROSÉ THEATRE

ロゼ 富士市文化情報誌 ロゼ 1994年4月発行(第7号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416富士市蓼原1307番地の8 TEL(0545)60-2510(代)
企画・編集・制作 (財)富士市文化振興財団事業課広報係 (株)エイエイピー・アタゴオル

MIKIO OZAWA

小澤幹雄(司会者・音楽ジャーナリスト・エッセイスト)

音楽によって、大きな友だちの輪ができていくことは、とてもうれしい。

クラシック音楽を身近かに…。ロゼシアターでは親しみやすく、アットホームな雰囲気の中でクラシックを楽しんでいただこうと本年一月から三月までの間、四回シリーズでポピュラーな曲目を中心にミニコンサートを開催しました。
このコンサートのキーマンとなる司会者は「やわらかクラシック」でお馴染みの小澤幹雄さん。ステージで小澤さんは軽妙な口調で曲目の解説を行い、さらにアーチストとのやりとりで客席をわかせ、コンサートをより魅力的なものに仕上げてくれました。
小澤幹雄シリーズは終わりましたが、ロゼシアターでは新年度もこの企画を継続していく予定です。このコンサートを聴いていただき、クラシックファンがひとりでも増えればと願っています。
小澤さんとは、四回の出演を通じて親しい間柄となり除に陽にアドバイスをいただいてきたところです。
本誌ではこの機会を逃さず「やわらかクラシック」の真髄に触れんと突撃インタビューを試みました。

四回にわたり、大変楽しい司会をありがとうございました。しかも毎回ご自身で車を運転されて…、富士市は今回が初めてですか。——

「富士市は初めてですね。でも近くにはよく来るんですよ。沼津で(リゾートかわら版)というグラビア雑誌を出している友人から音楽エッセイの連載を依頼されていまして、その関係でコンサートやパーティ等の司会役に引っぱり出されるんです。先日は修善寺のあるお寺の依頼で講演と落語を演ってきたばかりで、箱根から伊豆方面にはよく行きますね。」

今回のシリーズでは、小澤さんのお話とゲスト音楽家の演奏で、より音楽を身近かにという企画だったんですが、ロゼシアターの使い心地とかお客様の反応はいかがでした。——

「コンサートの司会というのはなかなか気を使うものでしてね、演奏者をたてて、それに司会者がちょっと気の効いたお話をするというバランスを取るのが結構むずかしいですね。富士市のお客様は、まだこの様なコンサートには馴れていないようで、その辺の雰囲気づくりもしなければなりませんし、そのバランスが一番気がかりでした。でも中ホールも小ホールもとてもいいホールで、やりやすいし、僕が演奏している訳ではありませんけれど、ホールの雰囲気はとても良かったですね。初めての試みとしては成功だったと言えるんじゃないですか。」

クラシック関係のお仕事を数多くやられているようですが、一般的にクラシックは苦手だという方が多いようで、二回目のステージでクラシック音楽とテレビCMについて話されていましたね。——

「テレビの影響とはすごいものだと思いますね。コマーシャルの中で流れている音楽が必ずしも有名な曲のメロディーではない訳で、僕が知らなかった曲もあるくらいですから。好き嫌いにかかわらず、何回も何回も流れている内に、ああこんな曲もいいなあと思うこともありますし、実際にその曲が入ったCDが沢山売れていることも事実です。きっかけは何でもいいから、一度聴いてみようかなと思えばいいんですよ。知らず知らずの内に茶の間にもクラシック音楽が流れ、ファンも少しずつですが確実にふえていると思いますよ。」

小澤さんの代名詞のようになっている『やわらかクラシック』なんですが——

「前に僕がFM東京でやっていた音楽番組のタイトルなんですが、民放のクラシック番組としてはめずらしく長寿で、四年も続いたんです。ところがスポンサーの関係だと思うんですが、突然打ち切りが決まりまして、その時は熱心なリスナーの方々からお叱りやらはげましのハガキを沢山いただいたんです。心のこもったたくさんのハガキに感激した僕は、そのハガキを整理し、プリントして小冊子を作り、ハガキをくれた全員の方々に送ってあげたんです。それがきっかけとなり友の会ができ、日本全国に支部ができました。そんないきさつも含めて本(「小澤幹雄のやわらかクラシック」音楽之友社)を出したんです。静岡県にも二十人程いるらしくて、このあいだのコンサートにも来てくれたらしいんです。会員同志で結婚された方もいて、横のつながりというものは大切なんだなあと思いますし、僕も音楽によって大きな友だちの輪ができてとてもうれしいですね。」

小澤さんはサイトウ・キネン・オーケストラ※のスタッフもやられているとお聞きしましたが、誕生当初のこととか活動状況などを——。

「結成した当初五年間にわたりヨーロッパを回っていたんですが、普段は世界中で活躍している一流のソリスト達が一年の内の二週間だけ集まって、ヨーロッパ各地で兄征爾氏の指揮で演奏していたのが非常に評判となりまして、ザルツブルグで演った時も地元の新聞は大絶賛で、近い将来日本でも演ろうかということになったんです。しかし、東京や大阪などの大都市を回るよりは、ヨーロッパで有名なザルツブルグのような、全世界からコンサートのためにだけお客様が来てくれる場所を見つけて、そこにドッシリと腰をおろしてやろうということになったんです。兄も日本全国いろいろな所へ下見に行ってましたが、そこへたまたま松本市に新しいホールが出来るという話を聞き、環境も素晴らしいこともあり、兄達が乗り込んで行ったんです。最終的にはオペラを演るためのオケボックスを設けるという設計変更までお願いして、ここを日本のザルツブルグにしようと決めました。メンバーも売れっ子ばかりですから、九月の前半二週間に集まるのが限界ですし、それが一つのステイタスにもなっていますね。それで松本には全世界から評論家達が沢山来てくれまして、オペラ「エディプス王」の記事がすぐ数日後ニューヨークタイムズにドカーンと載ったものですから、松本市民の方々もブッ飛んだんですよ。今年はヨーロッパにも来てくれという要請もあり、ヨーロッパで一週間、日本の松本で一週間という変則的な形で開催することになっています。」

一地方都市の出来事としてはすごいことですよね。何年か先に富士市もそういうことになれば嬉しいんですが…、松本市の協力というのは——

「ええ、かなりのものですよ。市には音楽祭担当の方もいて一年中サイトウ・キネンの事を考えていてくれますし、国際音楽祭推進室も設置されています。商店街でもサイトウ・キネンの演奏が流れ、色々な店がポスター、楽器、僕の本(「松本にブラームスが流れた日」新潮社)などをウインドウに出してくれています。本のタイトルどうり、街中にブラームスが流れているんですよ。でもね、一つの地方都市の方達が音楽で一緒になり盛り上がるということは素晴らしいことですし、松本で出来たことが他の街で出来ないということはないと思うんです。もちろん普段ホールは普通のコンサートもやっていますし、ロゼシアターがある富士も松本に負けないぐらいの環境がある訳ですから、サイトウ・キネンに限らず、一つのオーケストラと常に親密な関係を保ち、大切にしていけば成果は必ずあると思いますね。」

そういう意味でも今回の小澤さんのシリーズは一つの路線を敷いていただいたということになり、本年度も六月からのコンサートを皮切りに作曲家の松尾祐孝さんという方に司会が決まり、小ホールで開催していく予定です。——

「それはいいことですね。頑張って下さい。どうもお忙しいところありがとうございました。今後も引き続き、ロゼシアターにもご指導をお願い致します。

東京全日空ホテルロビーで

●小澤幹雄プロフィール
旧満州大連市生まれ。早大文学部を経て東宝演劇部に入社、「がめつい奴」など多くの舞台に出演。一時越路吹雪の「付き人」をつとめる。その後フリーとなり、NHK大河ドラマ「勝海舟」などにレギュラー出演。昭和62年よりテレビ朝日の早朝ワイド番組「さわやかトゥディ」「やじうまワイド」のキャスター、FM東京の音楽番組「小澤幹雄のやわらかクラック」のDJなどをつとめる。その後、花王の生CMパーソナリティー(TBS「3時にあいましょう」)は15年以上続けて出演。最近は、司会、エッセイスト、音楽ジャーナリストとして活躍、兄征爾の主宰するサイトウ・キネン・オーケストラのスタッフとしても協力している。
著書に文中記載のほか「やわらかな兄征爾」(芸術現代社))、編書に「対談と写真・小澤征爾」(新潮文庫)、母の回想録「北京の碧い空を」(二期出版)を聞き書き。この他フィリップスより初のCD「小澤幹雄のやわらかクラシック——兄征爾を語る」(PHCP—1281)を発売。

※サイトウ・キネン・オーケストラ
桐朋学園の設立者として名高い斉藤秀雄氏(1974年没)を記念して、その弟子である小澤征爾氏らが中心となって同校卒業生が集まり結成されたオーケストラ。毎年1回国内外で積極的な演奏活動を展開している。

INFORMATION

ロゼ・イヴニングコンサート新シリーズ
『恋する作曲家たちⅠ〜Ⅳ』

インタビュー中にも紹介しましたが、ひき続きイヴニングコンサートを開催いたします。新シリーズは、有名な作曲家のエピソード、特に恋愛の話を交え、より身近に作曲家を感じ、クラシック音楽に親しんで頂く企画です。司会者には作曲家の松尾祐孝氏(P7のインタビューに登場)をむかえ、4回シリーズでわかりやすい解説をします。

★開催日　6月24日㈮・8月5日㈮
　　12月9日㈮・2月17日㈮

いずれもロゼシアター小ホールで午後7時開演。料金は2,500円均一。詳しくはイベントニュース又はP10のイベントプログラムをご覧下さい。

感動、鮮やかに

さまざまな分野から数多くのアーティストたちを迎えて
展開された、ロゼシアターのオープニングイベント。
それぞれに大きな感動を市民の皆さんに残してくれたと思います。
今回は、フラッシュバック・パートⅡとして
オープニングイベント後半のリポートをお届けいたします。
あの感動を再びここに…

（※サインは出演アーティストからいただいたものです）

①

●ロゼ・アフタヌーン&イヴニングコンサート
1月21日・2月18日・3月11日・3月25日
（小澤幹雄さんをホスト役にミニ・コンサート。4回シリーズの公演。）

②

③

④

①田部京子　1月21日
第1回は田部京子さん、すでにCDを何枚か出していて、この春東京でフレッシュアーティスト賞を受賞した新進気鋭のピアニスト。ショパンとメンデルスゾーンのピアノ名曲を小澤さんのトークを交え、たっぷりと聴くことができた。

②加藤知子　2月18日
第2回はヴァイオリン名曲の夕べと題して加藤知子さんの出演、名器ストラディバリウスを手にクライスラーとブラームスの名曲を美音豊かに演奏。テレビ、FMでしか聴けなかった加藤さんの演奏を生で聴けた。

③斉田正子・五郎部俊朗　3月11日
第3回は斉田正子さんのソプラノ、五郎部俊朗さんのテノールによるシューベルト歌曲の夕べ、聴きなれた名曲の数々も中央の音楽界で著名なおふたりが歌うと格別の味わいがあり、お客様から「さすが」という声が出た。

④東京ヴィヴァルディ合奏団　3月25日
最終回は弦楽合奏の魅力と名付け、G線上のアリア、ヴィヴァルディの四季(春)、弦楽セレナーデなど弦の魅力をお客様に満喫していただいた。出演は日本の代表的室内合奏団、東京ヴィヴァルディ合奏団。休憩時のティーサービスも好評だった。

●ZOO公演
3月12日
ロゼシアター初めてのニューミュージックコンサート。この夜大ホールはパワー全開！1600人の若者たちの熱気と汗と歓声のBIG　WAVE！ZOOと一緒になって歌い、踊り、ストレス発散のフィーバーナイトが爆発！

●NHK「ふたりのビッグショー」
2月22日
NHK名物番組の公開録画、関西出身の藤田まこと、中村美律子による文字通りのビッグショー。これぞ芸人というおふたりによる歌あり、コントありの超楽しいエンターテイメントショーにお客様は大満足。

●NHK交響楽団演奏会　3月23日
オープン以来待望のN響公演、名実ともに日本を代表するオーケストラのロゼシアター初登場に聴衆はわいた。N響ならではのオーケストレーションの妙味と豊潤な響きに、この夜コンサートホールは興奮のるつぼと化した。

●日本民族舞踊団公演
2月26日
全国各地に古くから伝わる民族芸能を舞台芸能として創りあげ、華麗なる鑑賞舞踊として完成させた日本民族舞踊団。この日、中ホールの舞台一杯に練り上げられた"技"の数々を披露してくれた。

●フォルクローレファミリーコンサート　3月27日
この日出演のソル・アモールの皆さんは日本を代表するフォルクローレグループ。「コンドルは飛んでゆく」の哀愁、サンバに代表される白熱のリズム、珍しい楽器を駆使して、お客様も参加させるなど、エンターテイメントの真髄を披露。

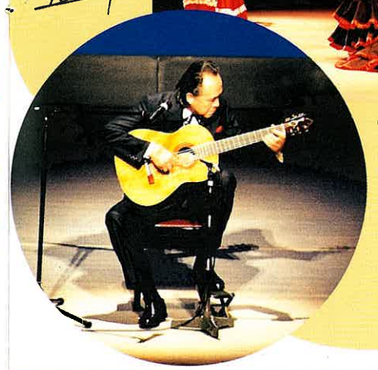
●ぬいぐるみ劇「ロビンフッドの冒険」
3月6日
童話の世界のヒーロー、ロビンフッドがロゼの舞台で大活躍。客席にいた多くのチビッ子たちもハラハラドキドキで舞台にくぎ付け、ロビンフッドが登場するたびに可愛いい声で声援していた。

OPENING EVENT REPORT PARTⅡ 甦る。Flash Back

●新日本フィルハーモニー交響楽団演奏会
1月30日
ロゼシアターオープン記念、三枝成彰作曲、市民合唱付ピアノ協奏曲「見よ西風からの富士」初公開。この曲は、ソリストに神谷郁代さんをむかえ、堤俊作さん指揮の新日本フィルハーモニー交響楽団の出演で披露された。市民合唱団も難曲を克服、感動の初公演となった。

●室内楽ガラコンサート　12月10日
珠玉の室内楽、内外の著名なコンクールで上位入賞の実力派ばかりを集めたガラコンサート。「これだけの若手名演奏家を一度に聴けるなんて…」（お客様）、ロゼシアターオープニングだけのぜいたく（？）なコンサートだった。

●グラシェラ・スサーナ ディナーコンサート
12月22日
スサーナが奏でるアコースティックギターとヴォーカルを聴いているといつの間にか、心が潤うのを感じた。この夜レセプションホールに集まった紳士・淑女のお客様はディナー&カクテルの雰囲気を味わいながら素敵なコンサートを楽しんだ。



●スペインギターとフラメンコの夕べ
2月4日
チケット売出しの頃から前評判の高かった異色の公演。スペインギターの第一人者中林さんの絶妙なギターテクニックは一層切れ味を増し、エキゾチックなフラメンコの踊りは情熱的なスペインムードを満喫させてくれた。

●ファンタスティック箏コンサート
1月7日
'94年初頭を飾るにふさわしい箏のコンサート。国際的にも著名な箏演奏家平塚芳朗と尺八のジョン・海山・ネプチューン。その卓越したテクニックと音色は、今年初めての公演に新鮮な感動をもたらした。

ROSÉ SPECIAL FEATURE

◉MESSAGE FROM ROSÉ THEATRE◉

●平成６年度を迎えて●

より大勢のお客様のご来館をお待ちしております。

平成５年11月１日オープン以来、財団では舞台公演でフォルクスオーパー管弦楽団・オペレッタガラコンサートを皮切りに28事業、展示室における作品展では平山郁夫展・郷土の作家展をはじめ４事業、合計32のオープニング事業を、またこのほか通常の自主公演として７事業を行ってまいりました。

おかげさまで、それぞれに大勢のお客様がおいでくださり、連日大にぎわいのうちに、これら一連の自主事業を終えることができました。心からお礼申しあげます。

さて、平成６年度のスタートに際し、財団として、事業方針を次のように考えております。それは「市民のみなさまに多種多様な芸術文化に接していただく機会を提供するとともに、市民の自主的な文化活動を積極的に推進し、個性豊かな“ふじの文化”を創造し、発信するための事業を行う。」ということです。

具体的には、まず育成という面から青少年を対象にした学校コンサート、新人演奏家コンサートなどを昨年に引き続いて行っていきます。また、創作事業の一環として富士市にふさわしいかぐや姫をテーマにしたフェスティバルを実施します。さらに居ながらにして国内外の優れた公演を鑑賞していただくため、本年度もクラシック・バレエ・ミュージカル…等、超一流のアーチストを招いていく予定です。

今後、文化情報誌、イベントニュースなどに催事日程を掲載してまいりますので、ご家族でご観覧いただき、ひとりでも多くの方々がご来館くださるようお願い申しあげます。

平成６年４月

財団法人　富士市文化振興財団

秋から冬、そして春。ロゼシアターを訪れる季節とともに、
来館者の声が華やぐ…。

私たちのMEDIA MIX!!ロゼシアター発信の　芸術文化。

before and after……find voice in Rosé Theatre

ロゼシアターがオープンして半年。この間、多くの方々が来館し、さまざまなイベントを見て・聴いて・参加してくださいました。その時の感動・喜び・これからの希望など、多くの声をいただき、この会館のコンセプト「文化と文化、人と人との交流」の大切さを改めて感じさせられました。今回はロゼシアターをご利用くださった6名の市民の方にコメントをいただきました。次回はあなたにコメントしていただくかも知れません…これからもロゼシアターにご注目ください。

●稲葉千佳さん
（厚原在住）

ロゼシアターでぜひ自分のリサイタルを

ピアノを始めたのは４歳のとき。そして、中学３年のとき熱心な先生にひかれて本格的にピアノをやってみようと思いました。

ロゼシアターで初めて公演を鑑賞したのは「イーヴォ・ポゴレリッチピアノコンサート」、ポゴレリッチの演奏会は２回目ですが、初めての時とは違った聴き方ができました。彼はとても繊細なので聴衆のマナーが心配でしたが、とてもすてきな演奏会でした。アンコールの曲がホワイエなどに表示されればもっと良かったかな。

ロゼシアターには、やはり一流のピアニストを呼んでほしいですね。たとえば、私のあこがれのパスカル・ロジェなど。それからやさしいピアノのコンサートがいつも聴けるといいですね。大勢の人にピアノの素晴らしさをもっと知ってもらいたい。

これからの夢は、自分で企画して演奏を聴いてもらえるようなリサイタルを開きたいですね。最初は小ホールからそして大ホールへ…。

●稲葉哲之さん
（浅間本町在住）

２回目の個展もロゼシアターで…。

高校生のときに絵本作家を志しました。子供のときに見たディズニーのアニメが印象深くそれがきっかけになったのかな。今は、絵と彫刻を合わせた自分独特の作品作りをしています。

ロゼシアター特別展示室での初の展示会は、思っていたより反響が大きくて自分でも驚いています。夜10時まで使用できるのは魅力。もっと気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気だといいですね。特に８時以降は会館全体が寂しくなってしまうので残念です。ロゼシアターで一般から作品を公募して「ロゼシアター賞」なんてつけたらいいんじゃないかな。市内からはじめて、いずれは全国規模で…。

現在のテーマは「身近な自然」、遠いところの大自然よりも自宅の庭にある小さな自然。今のスタイルをくずさず、どこまで自分のテーマを持続できるかが一番大切だと思っています。作品がたまったらまたロゼシアターで第２回の展示会を開催したいですね。

●大久保忠さん
（中央町在住）

妻と二人でクラシック６公演分のセット券を購入しました。

以前からクラシックを聴くのが好きでしたが、学生の頃から演奏会を見に行く機会もなくこれまできてしまいました。ようやく今になってゆとりがでてきたこともあって、できるだけ演奏会に足を運んでいます。音楽の教養を深めるというか…。

ロゼシアターオープン記念のセット券が発売されるということを知り、迷わず購入しました。忙しくて、頻繁にチケットセンターへ行けない私にとって、セット券は大変助かりますね。私だけのリザーブシートもありますし、スケジュールが立てやすい。

ロゼシアターのオープン公演で一番印象に残ったのは、前橋汀子さんのヴァイオリンコンサートです。演奏会の魅力は、演奏者と聴衆のやりとりだと思います。演奏中何が起こるかわからない、そんな緊張感も楽しみのひとつですね。

また前橋さんやN響、それにサイトウ・キネン・オーケストラを呼んでもらいたいです。それから、ロゼシアターを拠点に活動するオーケストラ・演奏家がほしいですね。 ロゼシアターは今年度、来年度が勝負。演奏会や催物の会場としてだけではなく、富士市の文化ゾーンの拠点となるよう、大いに期待しています。

●増田香收さん
（石坂在住）

夢のような世界が満喫できる

子供向けの公演を見にきた時、ロゼシアターに託児室があることを初めて知りました。早速、ずっと見たかった「キーロフ・バレエ」公演のときに子供を預けました。初めての経験でしたので、開演後20～30分は子供のことが気になりましたが、そのうち公演に夢中になってしまいました。私はバレエが大好きなので、家に帰ってもその話ばかりでした。

ロゼシアター主催のイベントは託児室が利用できますが、主催者が違うと託児室が利用できないことがあります。そういう場合、有料でもいいですから利用できるようになると大変うれしいですね。これまで、５～６回託児室を利用させてもらいました。市民の皆さんはロゼシアターに託児室があることをあまり知らないんじゃないかしら。いまでは子供のほうも慣れてしまって、「またロゼへいくの」なんていってます。

今後、パリ・オペラ座、モーリスベジャール、モンテカルロバレエ団なんかの公演が見たいですね。いつもチケットセンターでチケットを買った日からワクワクしています。夢のような世界が満喫できるロゼシアターは、私のストレス発散の場ですね。

●望月夕子さん
（中里在住）

将来の夢はオーケストラを…

高校時代に吹奏楽部でトロンボーンを吹いていました。その当時はクラシックにも関心がなく、音も良く出ませんでした。しかし、大学に入学しファゴットに出会い、「これだ」と思いました。人と楽器というのは相性があるんですね。

３年ほど前に、富士フィルハーモニー管弦楽団に入団しました。いろんな人と一緒に演奏するのが好きです。私は富士フィルの“ファゴット係”ですよ。ハハハ…

ロゼシアターに初めて来たのは、ウイーンフォルクスオーパーのコンサート。ホールに入った瞬間、建物とホールの大きさに圧倒され、ここは富士市ではないと思いました。時々、ロゼシアターを待ち合わせの場所にしています。ホールはもちろんすばらしいんですが、私はホール以外のスペースがとても気に入っているんです。ガレリアも素敵ですし、チケットセンターのレーザーディスクが無料で見られるのもうれしい。オペラや日本の伝統芸能のレーザーディスクを増やしてほしいですね。

ロゼシアターでオペラが見れたら最高！それから小ホールでアンサンブルもやってみたい。将来の夢はズバリ「ロゼ・メモリアルシンフォニアオーケストラ」をつくること。

●高橋由紀子さん
（天間在住）

いつも若者たちのざわめきを感じていたい

私とロゼシアターとの最初の出会いは、今年の成人の日。会館初の「成人式」に参加できてとてもラッキーでした。その時、「リア王」の公演を知って早速チケットを買いました。私、短大で英文学を専攻していてシェークスピアの作品を原語で読んだんです。その中に「リア王」があって…。演劇って初体験なんですが、何か違った面からこの作品を捉えることができてとても有意義でした。

それから、とても楽しみにしていたのが３月12日の「ZOO」の公演。御殿場の友達を誘いました。彼女、会館の素晴らしさにため息ばかり、ちょっと得意な気分でした。席もいい場所がとれてもう最高！。でもみんなのノリがいま一つでちょっと欲求不満な感じでした。富士市の若者っておとなしいのかなあ？でも本当の理由はまだ場馴れしていないことだと思う。だから、これからもどんどん若者向けの公演をお願いします。個人的には「TRF」や「ドリカム」なんかいいですね。

それと、ロゼシアターの周りってすごくきれいですよね。だから、ロゼだけでなく中央公園でもフリーマーケットやイベントをどしどしやって、いつも若者たちのざわめきが感じられる場所になれば素敵ですね。

難しい音楽などないことを皆さんに伝えたい

クラシック音楽に親しむためのミニコンサートシリーズ第二弾として、本年六月から四回にわたり『恋する作曲家たち』と題してイヴニングコンサートを開催します。有名な作曲家のエピソード、特に恋愛の話を交え、より身近に作曲家を感じていただけたらと、準備を進めています。この新シリーズの司会役で登場していただくのは、作曲家の松尾祐孝さんです。その松尾さんにお話を伺うことができました。

作曲家でいらっしゃる訳ですが、教育テレビの番組に出ているとお聞きしているんですが――

「ええ、NHKの教育テレビの『ゆかいなコンサート』という、小学校四年生を対象とした音楽番組を担当しています。小学校の授業用の一環として、理科とか算数とかありますね。それの音楽版です。」

どんな内容でしょうか――

「十五分の番組で年に二十本放映するんですが、音楽に対する先入観がくる前にいろいろな音楽をまず聴いて貰いたいと、世界中の民族音楽からヨーロッパの楽器の紹介、さまざまなアンサンブル、その中で何回かに一回は必ず邦楽も含め、現代音楽まで入っています。子供対象なんですが、一年間を通して見ますと、大人の方にもクラシック入門としてピッタリですよ。」

松尾さん自身のお考えが、もともとこのような音楽教育をやろうと思っていたんでしょうか――

「半分それもあるんでしょうね。僕自身は作曲家で、普通の方にとっては難解だと思われている現代音楽を書いているんですが、本当に書きたいと思った題材の時には子供の合唱曲も作っています。五・六才の時にひばり児童合唱団、小学校二年からはNHK東京放送児童合唱団で歌っていて、その頃の環境や体験がとても楽しかったこともあって、そういうものを絶やしてはいけないという思いがあるんです。今の子供たちは塾通いとか勉強が中心になってしまっていて、好きな事や遊びが中心ではないですよね。番組の中で子供たちと生のコンサートを見に行こうという所があるんですが、今の時代というのは自分から出かけて行かなくても、お金出せばCDも買え、スイッチを入れればテレビも見られるという状況ですよね。でも生の演奏に触れたり、絵や彫刻の本物を目の前にして見るというのは、違った感動があると思うんですよ。それに父が書道家でして、一対一で教えている姿を見て育ったこともあって、僕が子供たちに教えることで何か役に立つこともあるんではないか、こういうことは世の中には絶対必要なんだとおぼろげながら思っていたからでしょうね。」

ところで話は変わりますが、六月から四回シリーズでコンサートの司会役をお願いする訳ですが、一般的にクラシック音楽はポピュラー音楽に比べると敬遠されがちなんですが――

「これは僕なりの考え方なんですが、現代社会はストレスが多いことがひとつ、ポピュラー音楽というのは一定の等間隔でビートが刻まれていて、それに身を委ねればいい訳で、身構える必要がないんです。ところがクラシック音楽というには心理的なビートはあっても、必ずしも一定にビートが刻まれている訳ではないんです。自分から追っていかなければならなくて不安になり、難しいものに思えてしまうんでしょうね。いくら解説付とはいってもいきなりコンサートではなく、実は音楽はこういうふうに無意識に聴いているもので、クラシックも難しそうですが、そうじゃないんですよという演奏付の入門的なお話の会から入り、高い敷居を取ってあげてから、ではコンサートを聴いてみましょうというのがいいと思うんですが。」

次には改めて是非そのような講座をお願いしたいですね。どうもお忙しい中をありがとうございました。

作曲家

松尾祐孝

PUROFILE

まつお まさたか／1959年東京生まれ。
東京芸術大学作曲科、同大学院修士課程修了。1984年第1回現音作曲新人賞入選。
'85年第3回日仏現代音楽作曲コンクール特別賞。'88年ACL青年作曲賞第1位。
'89年Impressions of Hong kong管弦楽曲コンクール第1位。
香港フィル定期演奏会(91年)、ISCM(国際現代音楽協会)World Music Days ワルシャワ大会(92年)、
台北国際打楽器祭(93年)等、世界各地で作品が演奏されている。
平成5年度村松賞受賞。東京フィルハーモニー交響楽団委嘱作品・PHONOSPHERE I～尺八と
管弦楽の為に～の初演が大成功、日本＝ポルトガル友好450年記念にはリスボン・グルベンキアン
管弦楽団定期演奏会でも欧州初演され、絶賛。作曲、指揮、プロデュース等にも多彩な活躍を見せ、
教育活動にも力を注ぎ、'93年4月からは、NHK教育TV「ゆかいなコンサート」にレギュラー出演。
現在、洗足学園大学、東京コンセールヴァトアール尚美、非常勤講師。
PHONOSPHERE MUSICALE主宰。

音楽に携わることの喜び

このコーナーは富士市文化振興財団の芸術委員の方に、その豊富な知識と経験による音楽・演劇・鑑賞論等のエッセーをリレー形式でお願いしています。今回は作曲家・川崎優先生の登場です。

私は貧乏音楽家の家に生まれた二世音楽家であり、無理にこじつければ父の伯父、つまり私の大伯父はかつての陸軍軍楽隊を創設した初代の軍楽隊隊長であり、私は三世音楽家ということになる。大伯父の永井建子は軍楽隊創設のためにフランスに遊学した為か、大変なフランスかぶれであったが、片やファッショ嫌いの父の川崎豊は、伯父に曳かれて入隊した軍楽隊を早々に引き揚げて声学の勉強の為にイタリアに留学したイタリアかぶれの自由人である。そのような星のもとに生まれた私もつまるところ音楽を生業として音楽遍歴の後、只今人生の後半生にさしかかろうとしているところである。この様な身の上話はよそ様には全く興味のない事とは思うが先ずは音楽を生業とする一人の男の生い立ちをお見知りおき頂き、つれづれなるままの戯言をお聞き頂ければ幸せと存じます。

時に人様から〝あなたの年代でこともあろうに音楽家になろうとしたのはどうした訳ですか？〟と訝しげに聞かれる事があるが、それもそのはず私が東京音楽学校、現在の東京芸術大学音楽学部の前身に入学したのは大東亜戦争突入の一年前であった。そして熾烈な第二次世界大戦のさなかに学業半ばにして学徒兵としてソ満国境に出征した音楽家の卵は、フランスかぶれやイタリアかぶれどころか明日の命の保証もない境遇にあったのである。

この様な時代にあっても私が音楽の道を選んだ訳はここで申し上げる事もなくご理解頂ける事と思うが、やがて終戦、実は敗戦の廃墟の中の学窓に心身共に傷ついた身を寄せた時の気持はとてもここに言い表わせる様な単純なものではなかった。世の中はすさみ空腹の為に学校をサボって家で寝ていた事も度々であったが、しかし若さというものは有り難いもので、また芸は身を助くと云われるが音楽学生同志でアンサンブルを組んで進駐軍、つまり在日米軍の要請で彼らの安息の為に演奏を提供し僅かな報酬を得て糊口をしのいだのが音楽家としての初仕事であった。かつての敵軍に音楽で奉仕する自分の姿に、心の内で複雑な涙を幾度か覚えたものであるが、悲惨な物語はこの位にして私と音楽との永い間の出会いを凝縮し、私の人生の中の音楽遍歴を少しばかりご披露させて頂こう。

一九六六年といえば日本の外貨保有量は僅か三〇億ドルの時であった。つまり外国留学などとても難しいときであったが、私は幸運にもユネスコの研究員として視察研究の為にアメリカに一年間派遣される事になった。

まず作曲家クリフトン・ウイリアムスのもとに身を寄せたとき、開口一番彼の口から出た言葉は〝君の国と私の国は戦争と云う忌まわしい過去をもってしまったが、この償いを我ら音楽家同志でしようではないか〟と、彼は海軍将校として日本と戦ったのである。またアメリカ有数の出版社ルバンク社の社長ラッペル氏も大戦中の歴戦の勇士であったが私を心から歓迎してくれて後に私はこの出版社の仕事をし、またジュリアード音楽院ではパーシケティー教授のもとでの研鑽がその後の私の活動に大きな影響を与えてくれた。

帰国後私は静岡の常葉学園に奉職する事になり、当学園で行われる「静岡国際青少年音楽祭」は今までに五回の実績を持ち、延べ二十数か国の青少年が参加しているが、今年度行われる第六回目の行事の中では七月二十六日にロゼシアターでオーストラリア、ロシア、チェコなどの団体による演奏会が開かれる予定である。私はこの音楽祭の音楽監督として音楽を通して各国の青少年の嬉々とした交換に限りなき喜びを覚えるのである。

今年の三月にはモスクワ音楽院・常葉学園短期大学セミナーを成功させることができ、委員長としてまた音楽家として望外の喜びを与えられたが、特にモスクワ音楽院の教授達の演奏は予想を遙かに越えた感動的なものであった。出来る事なら来年度のこの行事の一環として、この素晴らしい演奏会を是非富士市ロゼシアターで実現したいものである。

さて私はモスクワ音楽院から招待されて、来る八月十三日にラフマニノフホールにて私の作品が多数演奏されることになり、大変な名誉である事を付記させて頂き、一音楽家の戯言を終わる事としよう。

作曲家・富士市文化振興財団芸術委員

川崎 優

PUROFILE

かわさき まさる／1924年東京生まれ。
浅草富士小学校、広島二中を経て1943年東京音楽学校(現東京芸術大学音楽学部)入学、
1945年学徒兵として中国戦線に出征、終戦後復学、
1947年同校卒業、1949年から東京芸大講師、
常葉学園大学教育学部・常葉学園富士短大教授を歴任し、現在常葉学園短大音楽科教授。
1956年文部省主催芸術祭にて文部大臣作曲賞及びNHK協会長賞、
1966年ユネスコ研究員としてジュリアード音楽院他で作曲研究、
フライブルグ第6回ドイツ連邦音楽祭審査員、イタリア・コルチアーノ市作品コンクール審査員、
神戸国際フルート作品作曲コンクール運営委員長、静岡国際青少年音楽祭音楽監督、
モスクワ音楽院・常葉学園短期大学セミナー委員長。
作品・万国博覧会協会委嘱「万博マーチ」、広島市委嘱「祈りの曲・哀悼歌」他多数

ROSĒ THEATRE EVENT INFORMATION

●1994年5月〜7月の催し物のご案内●

財団自主事業をはじめ、一般貸出事業を含めた5月〜7月分のイベントスケジュールです。これを参考に、あなただけのスペシャルプログラムを作ってください。

5 MAY

日	曜日	ホール	イベント
1	日	小	第8回信友会歌謡教室発表会
3	火	中	富士クラシック協会 第4回ジョイントリサイタル
3	火	小	後藤広子ピアノ発表会
4	水	中	宮崎駿映画祭 第1部
5	木	中	宮崎駿映画祭 第2部
8	日	大	'94伊藤美智子バレエスタジオ発表会
8	日	中	太鼓衆「一丸」「IDE感動」 ★
8	日	小	大日本茶道学会家元講演・茶会
9	月	中	健康講演会及び発表会
10	火	大	吉水調静岡教区詠唱大会
12	木	大	第114回例会NHK公演「ニッチカ」
13	金	大	第114回例会NHK公演「ニッチカ」
13	金	小	岳南法人会総会
14	土	中	ヤマハ音楽教室富士地区合同開講式
15	日	中	富士市コーラスフェスティバル
15	日	小	長唄演奏会
19	木	小	富士環境衛生自治推進協会総会
21	土	大	きもの着付けショー「夢追い人」
21	土	小	ロゼ・アカデミーコンサート「オルガン」
22	日	中	ライトハウス講演会
22	日	小	富士ジャックラブ発表会
26	木	大	八代亜紀コンサート ★
28	土	大	マルダイショー
28	土	小	シャンソンコンサート 堀内美希・佐野加織「シャンテ2幕」★
29	日	大	秋山バレエスクール バレエ発表会
29	日	中	'94MAYコンサート
29	日	小	若竹会ピアノ発表会
30	月	小	富士市地区委員委嘱状伝達式 平成6年度富士市町内会連合会総会

6 JUNE

日	曜日	ホール	イベント
1	金	小	静岡県コミュニティカレッジ研究集会
2	木	大	新日本フィルハーモニー交響楽団演奏会
2	木	小	グッドフェローズジャズコンサート ★
3	金	大	新日本フィルハーモニー中学校巡回コンサート
4	土	大	日産労組創立記念行事
4	土	小	滝口和子ピアノおさらい会
5	日	大	チャリティーコンサート マンバ ★
5	日	小	古部ピアノ教室ピアノ発表会
8	水	大	静岡県浄土宗檀信徒大会
11	土	小	窪田早百合ピアノ・エレクトーン発表会
12	日	小	すずれの会ピアノ発表会
13	月	小	富士スポーツ医学シンポジウム
15	水	大	ふじしん講演会
15	水	小	創価学会講演会「人権は愛と信用と思いやり」
16	木	大	アルフレッド・ハウゼタンゴオーケストラ
17	金	大	劇団ひろさとキャラバン公演
18	土	小	QCサークル全山川大会
19	日	大	歌謡グランプリ吉原大会
19	日	小	稲葉千佳ピアノ発表会
24	金	小	ロゼ・イブニングコンサート「木管八重奏」
25	土	大	富士交響吹奏楽団定期演奏会
25	土	小	富士女声コーラス10周年記念コンサート
26	日	中	実践倫理講演会（社年のつどい）
26	日	小	ひろ歌謡教室カラオケ発表会

7 JULY

日	曜日	ホール	イベント
1	金	小	建設業労働災害防止全大会
1	金	中	オリベン化粧品東海本部大会
2	土	中	フラワーコンサートX
3	日	大	富士フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会
3	日	小	植田晴美ピアノ・エレクトーン発表会
6	水	大	こまち座公演「頭痛肩こり樋口一葉」
7	木	大	こまち座公演「頭痛肩こり樋口一葉」
9	土	大	全国お母さんコーラス関東支部大会
10	日	大	全国お母さんコーラス関東支部大会
14	木	大	ボリショイ劇場 グリゴローヴィチバレエ団
16	土	中	稲留倫子ピアノリサイタル
16	土	小	石井志保ピアノ発表会
17	日	大	婦人夏期大学講座
17	日	中	カッパ座ぬいぐるみ劇団
17	日	小	川村陽子ピアノ発表会
19	火	小	日米親善合同演奏会
22	金	小	リトルコンサート
23	土	中	「ひろっち箱コンサート」
23	土	小	富友会年次総会
24	日	小	福沢真理子ピアノ発表会
25	月	小	ピアノ・ドリマトーン発表会
26	火	中	第8回日本国際青少年音楽祭
26	火	小	ピアノ・ドリマトーン発表会
27	水	大	みんおんファミリー劇場「ミシシッピーの冒険」
27	水	小	ピアノ・ドリマトーン発表会
28	木	小	学校給食業務従事職員夏期研修会
29	金	大	富士市内小学校音楽発表会
29	金	小	松本尚子ピアノ発表会
30	土	小	加藤喜美子エレクトーンピアノ発表会
31	日	小	平田和子ピアノ発表会

★印は、ロゼ・チケットセンター窓口でも取扱っています。
※一般貸出事業については、平成6年4月中旬までの受付分です。
※各ホールでのイベントや展示などの日程は変更になる場合があります。

財団自主事業

チケットのお申し込み・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
☎0545-60-2500（ロゼ にゴー）
受付時間／9:00〜19:00

プレイガイド

- ●すみや
  - 富士本町店☎(0545)63-2233
  - 市役所前店東館☎(0545)53-5800
- ●富士市民センター☎(0545)61-6262
- ●ラ・ホール富士☎(0545)53-4300
- ●チケットセゾン（沼津）☎(0559)61-2405
  - 静岡・浜松店でも取り次ぎます。
- ●カワセ書店
  - 鷹岡店☎(0545)71-9592
  - 富士宮・宮原店☎(0544)24-7160
- ●ユニーサービスカウンター
  - 吉原店☎(0545)51-9027㈹
  - 富士宮店☎(0544)24-0255㈹
- ●丹沢楽器富士店☎(0545)52-1586
- ●吉原商店街虹いろーどホール☎(0545)51-5227

●展示室のご案内●

展示期間	展示室	催事
5/18〜22	一般	パッチワーク展
5/25〜29	一般	第46回富士市美術協会展
6/4〜5	特別・一般	環境展
6/10〜19	特別・一般	世界人権展
6/23〜26	特別・一般	竹游書道会展
6/28〜30	特別・一般	現代作家タピストリー展
7/1〜10	特別・一般	現代作家クピストリー展
7/14〜17	特別・一般	富士市展
7/23〜24	一般	'94花のシンフォニー展
7/28〜31	特別・一般	富士市展

このイベントここが見どころ

ボリショイ劇場 グリゴローヴィチ・バレエ団

チャイコフスキー
白鳥の湖
7月14日(木)
大ホール
●開場/18:00●開演/18:30
S席：10,000円 A席：8,000円
B席：6,000円 学生席：3,000円
★チケット発売/5月8日(日)

ロゼシアターにグリゴローヴィチ・バレエ団がやってくる！90年4月に設立され、踊り手の平均年齢が21歳という、ボリショイの伝統美と多くの可能性を秘めた若さあふれるバレエ団。今回の演目は「白鳥の湖」、若きダンサーたちの美しく、ハツラツとした舞台はあなたを夢のような幻想的な世界へと誘ってくれることでしょう。

【編集後記】

「ロゼ」創刊後二回目の春を迎えた。一年前初々しい顔をしていたわが財団のホープたちもずい分たくましくなった。テキパキとこなす仕事は頼もしい限りである▼だが好漢自重——さらに飛躍するため振り返ることも時に必要。本誌も7号を数え、創刊当時のイメージで表紙を作ってみた。露を含んだ若葉がまぶしい、初心に帰る気持で誌面も少し変えた。ハードからソフトへ。今年度は〝人〟に焦点をあてて編集していきたい▼小澤幹雄さんには三か月間に四回も出演していただき大変お世話になった。著名人でありながらその気さくな人柄に会話がはずみ、時間も超過しがちだった。〝人〟との出会いはいつもファンタスティック。

富士市文化情報誌 ロゼ
一九九四年四月発行（第七号）
発行
㈶富士市文化振興財団
〒四一六
富士市蓼原一三〇七番地の八
TEL（〇五四五）六〇—二五一〇㈹
企画・編集・制作
㈶富士市文化振興財団事業課広報係
㈱エイエイピー・アタゴオル

PICK UP PEOPLE

●シリーズ・富士の文化活動に参加する人々⑦

FUJIインペリアルブラスアンサンブル

それぞれが持つ個性を生かし、一つの物事を作り上げていくことは、それが大変であればあるほど楽しみも大きい。富士市のさまざまな文化活動を紹介するこのコーナー、第七回目は金管楽器のアンサンブルで自分たちの音楽を表現している若きグループ「FUJIインペリアルブラスアンサンブル」の皆さんです。

◀ロゼシアター第2練習室で

個性が音となって爽やかに響く、若きアンサンブル集団。

五年前『自分達の感性で音楽を作ってみたい』と金管楽器を演っている仲間が集まり、「ひまわり楽団」という名で結成。中伊豆リハビリセンターの慰問演奏会から始まり、元吉原小学校・新富士駅・鎧ケ淵公園・社会福祉フェスティバルなどのイベントや、スターライトコンサート・ほのぼのコンサート等への参加など活発に活動を展開。その間、名前も「FUJIインペリアルブラスアンサンブル」と改称し、現在二十二名の団員で活動している。

ロゼシアター練習室に爽やかなブラスの音が響く。金管楽器は信号ラッパから発達したためか、きれいというよりも、どうしても勇ましいというイメージが強いようです。」と、団長の渡辺幸成さん。演奏内容は「出演する催しによってポピュラー音楽からクラシックまで幅広く演りますが、自分たちを表現する方法としてはブラスアンサンブルで、バロック以降のクラシック音楽を追求して行きたい。」と。今年の三月には五年間の集大成で楽団オリジナルコンサートをロゼシアターで開催。団員の平均年齢は二十二〜三歳、MAYコンサート出身も何人か在籍する。「不器用でも精一杯演奏し、音色に団員の個性や人生観などが出せたらいいですね。」と渡辺さん。好きで集まった仲間だからまとまりも良く、中には練習のためにだけ秋田県の岩城や東京から来る団員もいる。でもこれ以上団員数が増えるとブラスバンドになり、自分達が追求したいアンサンブルとは方向性が違ってしまうし、練習場所の確保もなかなか…」という悩みもあるが、場所の問題に関してはロゼシアターが出来たことで随分楽になったという。

このサークルのもう一つの特色は、団長の渡辺さんが教育関係の仕事をしていることもあり、中・高校生の部活の指導もやっている点である。「私一人でも行きますし、都合さえつけばメンバーも一緒に行って指導します。ただ、楽器をやっている方なら分かると思いますが、ブラス関連の楽譜の入手がなかなか難しく苦労しています。そういう意味では、メンバーの増員ではなく、ここでの練習を見学したり、楽譜の入手方法や交換によって一つでも多くブラスのサークルが増えれば嬉しいですね。私達がその先駆けと思っていただければ…」

渡辺さんは日頃子供達に『ロゼに行こう』を合言葉にしているという。「音楽はもちろん、絵画やオブジェの展示、そして文化的な情報入手にロゼシアターの役割はとても大きいと思う。いろいろな文化活動が一つでも多く展開していけたらいいし、私たちのサークルがその手助けになれば嬉しいですね。」若いブラスの集合が春風のように心地良く響き、爽やかな音となって輝いていました。

詳細及びお問い合わせは下記まで——

ブラス楽器のこと情報交換しましょう!!

- ●日　時／毎週土曜日 PM6:00頃〜
- ●場　所／富士市文化会館ロゼシアター第2練習室
- ●問い合わせ先／〒417 富士市依田原町5-19
  - ☎0545-52-5775　渡辺幸成